

「乳癌診療におけるPET画像の有用性を調べる後方視研究」

のお知らせとお願い

本研究の対象となるのは、2005年1月から2016年12月に防衛医科大学校病院乳癌外科にて乳癌の診断および治療目的で生検ないし外科的切除が行われた患者さんで、PET (positron emission tomography) 検査を施行された方、および、がんの切除標本の病理組織ブロックが当院検査部病理に保存されており、組織型などの臨床病理所見のデータ入手が可能な方を対象と致します。

乳癌は、腫瘍径が小さい早期の段階から他臓器に転移します。そのため全身の転移検索を含めた正確な病期診断が望ましいです。PET検査は放射性薬剤を体内に投与し、その分布や動態を画像化する核医学診断の一つであり、遠隔転移の検索に有効な診断手段と認識されております。ただ、乳癌診療においてPET検査は2015年版の乳癌診療ガイドライン上、乳癌検診の検査としては、評価が低いのが現状です。これまで我々のグループでは、感度が低いながらも特異度が高いことに注目し、乳癌術前検査として明らかな遠隔転移の見落としを防ぐ目的でPET検査を行い、PET検査におけるSUV (standardized uptake value) と腫瘍径、悪性度、ホルモン発現の関係について報告しました。特にSUVが高値になるケースでは腫瘍径が大きく、悪性度が高い症例が多いこと、予後不良の因子となる可能性があることを報告しております。2005年から集積してきた患者数1000名を超え、これらデータを後方視的に見直し、SUV値と生物学的特性との相関を含め、乳癌診療におけるPET検査の有用性を検討したいと考えてに至りました。

研究期間は防衛医科大学校倫理委員会承認後から平成31年3月31日までを予定しております。

日常で診断に用いられた後に当院検査部に保管されている、病理組織標本を用います。したがって、研究のため検査を追加し、新たな検体の採取を行うことはございません。また対象患者さんに、金銭的な負担が生じることもございません。

研究に協力いただいた方への直接の利益はございませんが、もし本研究を通

し、PET検査が乳癌の悪性度や治療効果の予測に役立つことが明らかになれば、診療成績の向上につながり得ると考えられます。

本研究では、組織標本や診療情報などに関する個人情報には匿名化によって厳重に管理され、個人が特定されることはございません。公的な結果の公表においても個人が決して特定されないように留意いたします。

研究で使用した標本や診療情報につきましては、研究終了後5年後又は結果の最終公表後3年のいずれか遅い期日まで防衛医科大学校外科学講座で保管し、その後廃棄します。

2005年1月から2016年12月に乳癌の診断を受け、当院で手術や治療を受けられた方で、ご自身の病理標本や診療情報を研究に用いないでほしいというご希望がございましたら、下記の連絡先までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、ご自身の病理標本や診療情報の研究への使用を拒否されましても防衛医科大学校病院における診療には全く影響はなく、いかなる意味におきましても不利益となることはございません。

連絡先：〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2
防衛医科大学校外科学講座
研究代表者 守屋 智之
電話 04-2995-1511（内線2356、5056）
FAX: 04-2996-5205